

稲築中学校区義務教育学校 施設整備事業
基本設計書

令和3年8月
嘉麻市 教育委員会

目次

1. 基本方針	
1-1. 背景	01
1-2. 基本コンセプト	
1-3. 基本コンセプト実現に向けた施設整備	
1-4. 設計コンセプト	02
1-5. 建築計画	
■ 配置計画	03
■ 平面計画	04 - 05
■ 立面計画	06
■ 断面計画	
2. 工程表	07

1. 基本方針

稲築中学校区義務教育学校施設整備事業の基本設計にあたり、「嘉麻市学校施設整備基本計画」、「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」および「稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画」に基づき、設計における施設整備の基本方針を整理する。

1-1. 背景

稲築西小学校および稲築中学校は築40年以上が経過しており、老朽化が著しいものとなっている。また、学校に求められる教育の質や方法は、校舎建築当時とは大きく変化してきており、多様化する時代の要求に対し、現行施設での対応は困難なものとなっている。さらに、人口減少やコロナ禍におけるICT授業の導入など、新たな時代の要求に対応できる施設整備が必要である。

以上の諸問題に対し、その時代の要求に柔軟に対応可能な施設の整備を行う。また、学校と地域交流を促進する地域コミュニティの拠点として、さらには地域の防災拠点として、地域住民の安全を確保することができる施設を整備することが求められる。

1-2. 基本コンセプト

上記の施設を整備するにあたり、基本となるコンセプトは以下となる。

I 質の高い教育を実現する学校

教育活動においては、「小学校5、6年生への外国語科導入」や「特別支援教育の充実」、「国際化・情報化への対応」、「個人の特性に合わせた教育の実施」など、多様化しており、その対応が求められている。これらの活動に対し、義務教育学校9年間において、児童生徒の情報を共有するとともに同じ教育目標を設定し、学習内容や生活指導等を継続的に捉えることが質の高い教育の実現に繋がって行くと考えられる。

II 地域創造の核となる学校

地域の重要な資源であると考え、学校と地域の連携をすすめる。これまで培ってきた地域の伝統や文化を継承していく役割とともに、新たな教育文化を発信していくための拠点施設となる学校を目指す。

1-3. 基本コンセプト実現に向けた施設整備

基本コンセプトの実現に向けた施設整備方針は以下となる。

(1) 4つの課題※1等に対応する施設

- ① 小中連携を推進する施設
- ② 明るく清潔な施設
- ③ 個々の教育的ニーズに応えられる施設
- ④ コンパクトで機能的な施設

(2) 新たな教育課題に対応する施設

- ① 時代の変化に柔軟に対応できる施設
- ② 国際化社会・高度情報化社会に対応できる施設
- ③ 主体的に学べる施設

(3) ふるさと嘉麻を心に育む施設

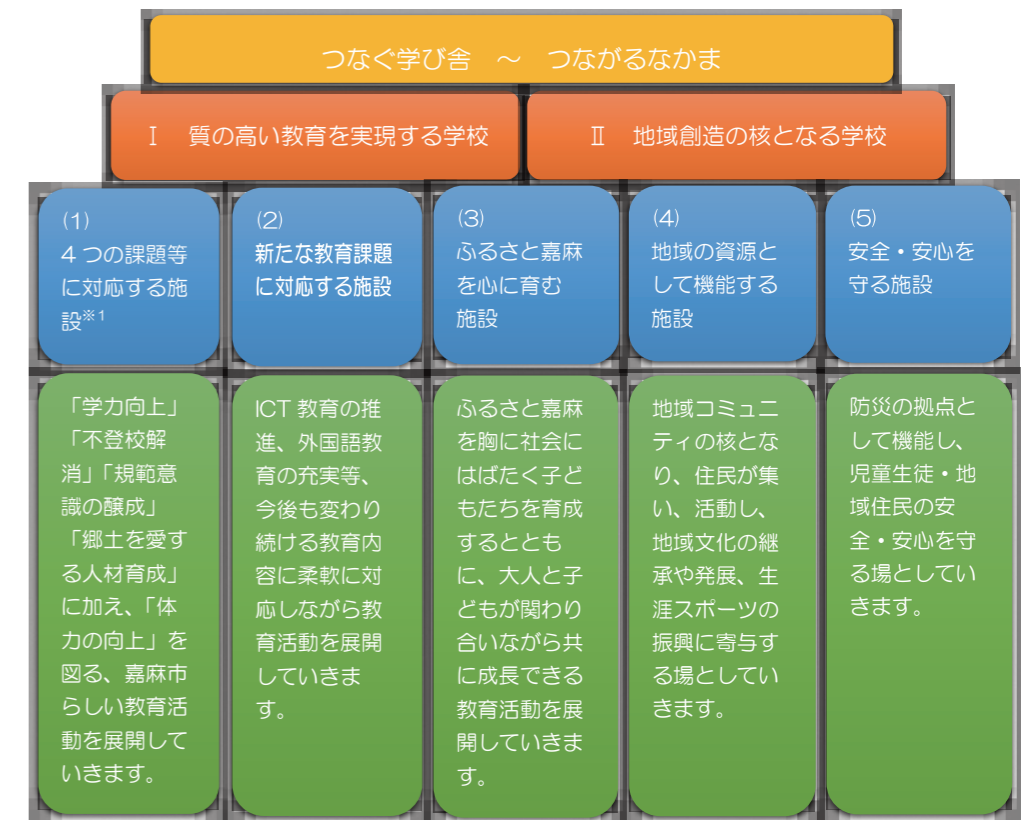
- ① 地域住民の集いの場となる施設
- ② 地元産材等を活用し、キャリア教育の場となる施設

(4) 地域の資源として機能する施設

- ① 利用しやすく、誰にでも優しい施設
- ② 地域コミュニティの拠点となる施設

(5) 安全・安心を守る施設

- ① 安全な施設
- ② 維持管理しやすく、長期にわたり機能性を確保できる施設
- ③ 環境にやさしい施設



施設整備の基本方針イメージ図

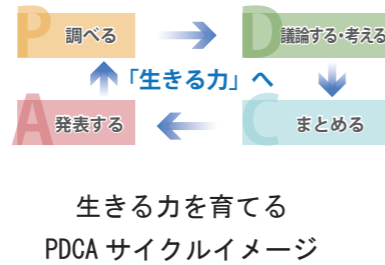
※1 嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

1-4. 設計コンセプト

前項の基本コンセプトを受け、稲築中学校区義務教育学校の設計コンセプトを以下として設定する。

「生きる力」をより一層育む学校

新たな義務教育学校として、児童生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、各教室機能の充実に加え、多目的ホール、階段教室、図書室、コンピュータ室、学習室など、多様な環境の中で「生きる力」を育むことのできる学校施設を目指す。

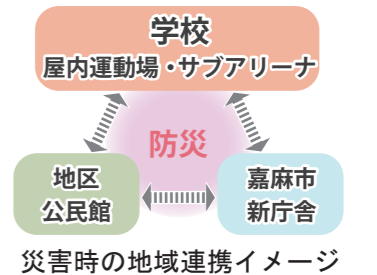


地域コミュニティの核となる学校

地域コミュニティの拠点として、学校敷地内にはサブアリーナや体育館、地域交流広場、創作ゾーンなど地域のイベントの開催やスポーツクラブの利用などが可能な地域開放エリアを計画し、地域のみんが使うことのできる施設とする。また、建物には木調の内装やユニバーサルデザインを採用し、多様な人々が訪れやすく使用しやすい施設とすることで、新しい義務教育学校が地域コミュニティの核となることを目指す。

安全・安心な学校

周辺施設との連携や災害時の避難場所として必要な機能の維持が可能な施設を計画し、災害時に安全・安心な学校を目指す。また、建物内においても、わかりやすい動線計画や避難機能の見える化など、児童生徒が安心して学校生活を過ごすことのできる学校を目指す。



グループ学習や各学級の活動に対応できる
普通教室に併設したオープンスペース



発表活動や劇場などいろいろな
利用ができる多目的ホール・階段教室



地域のイベントができる
駐車場・地域交流広場



みんなが過ごしやすく
ぬくもりのある木調の内装



断水時でも利用可能なマンホールトイレ



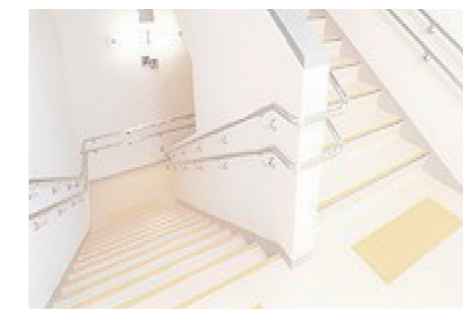
炊き出しが可能なかまどベンチ



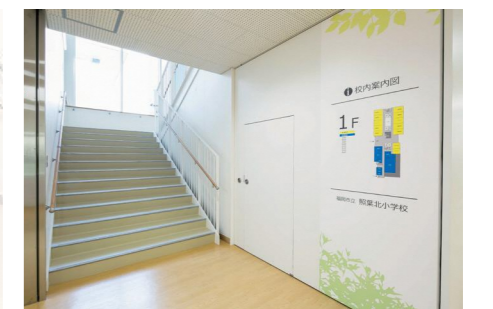
読み聞かせスペースや読書カウンターなど多様な機能があり、
児童生徒が楽しく学べる図書室



みんなが安心して使うことのできる
学校づくり（ユニバーサルデザイン）



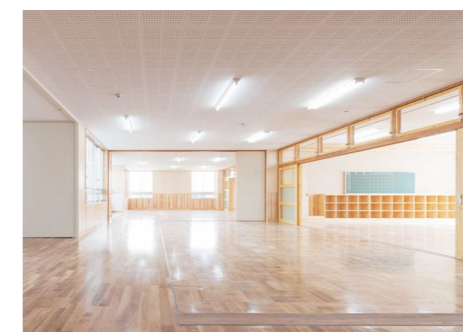
視認しやすく安全な階段



わかりやすいサイン計画



対話の中で学んだ知識を知恵に
変えていく学習室



広く見通しの良い廊下

※ 写真はイメージであり、実際の計画とは異なる場合があります。

1-5. 建築計画

建築計画について、配置計画、平面計画、立面計画、断面計画について以下のように設定する。

■配置計画

児童生徒の安全を守る施設づくり

- ・学校生活を過ごす児童生徒の安全を最優先に考え、登下校や日中の活動時において児童生徒の動線と車両動線が可能な限り重ならないよう歩車分離を行うことで、児童生徒の安全を守る計画とする。
- ・学校敷地へのメインアプローチを南門、西門の2か所とし、敷地内は死角の少ない動線計画とする。
- ・給食車両や学童保育所送迎車動線は東門とし、児童生徒の動線と明確に分かれた計画とする。
- ・1階昇降口前や駐車場などに防犯カメラを設置し、教職員室から直接見えない場所でも確認できるようにすることで、児童生徒の安全を守ることができる計画とする。

教職員が見守ることのできるグラウンド・広場

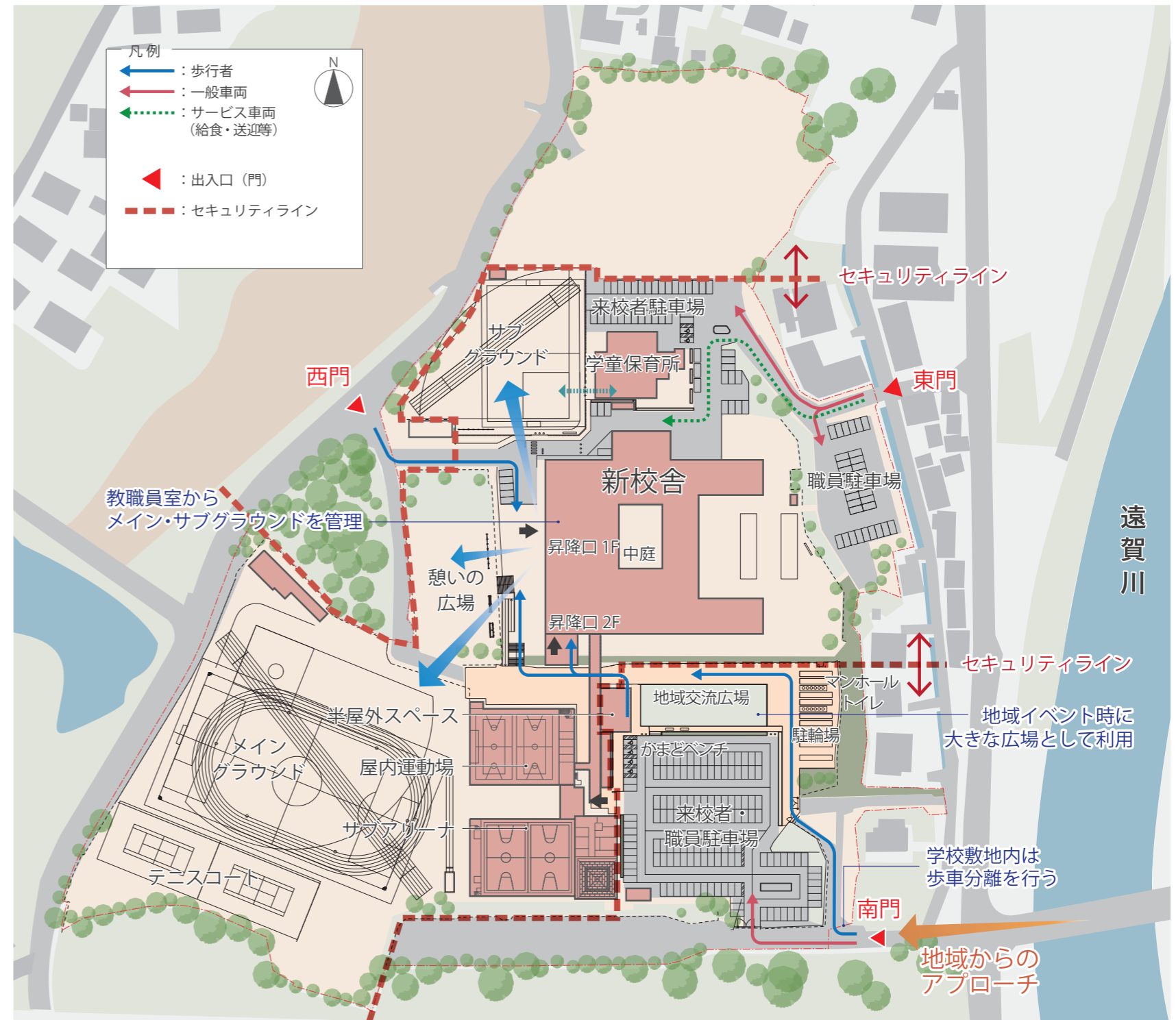
- ・メイングラウンド、サブグラウンド、憩いの広場は校舎の管理諸室から見守ることのできる範囲に配置し、学校生活の中で児童生徒が安全に活動できる場所を計画する。
- ・憩いの広場は天然芝エリアや遊具を配置することで児童生徒がのびのびと過ごすことのできる場所として計画する。
- ・メイン・サブグラウンドは多様な競技に対応できる広さを確保し、学習活動や社会体育活動に幅広く活用できる計画とする。

多様な利用が可能な地域開放ゾーン

- ・セキュリティラインは学校運用時に児童生徒の安全が確保できる位置に計画する。放課後および祝日には屋内運動場やサブアリーナを屋内の活動場所として、メイン・サブグラウンドを屋外の活動場所として地域で利用が可能な計画とする。
- ・地域交流広場や半屋外スペース、駐車場は地域イベント開催時にまとまった広場として活用が可能な計画とする。

災害時の防災拠点機能の確保

- ・災害時には屋内運動場・サブアリーナを中心に災害時の避難施設として活用が可能な計画とし、地域交流広場及び半屋外スペースではかまどベンチを活用した炊き出し、救援物資の受け入れなど災害対策活動が行える計画とする。
- ・マンホールトイレの配置や防災備蓄倉庫の設置など、避難所として活用できる計画とする。



配置計画図

※ 図は基本設計段階のものであり、実施設計で変更となる可能性があります。

■ 平面計画

他学年の活動が見える『コ』の字型

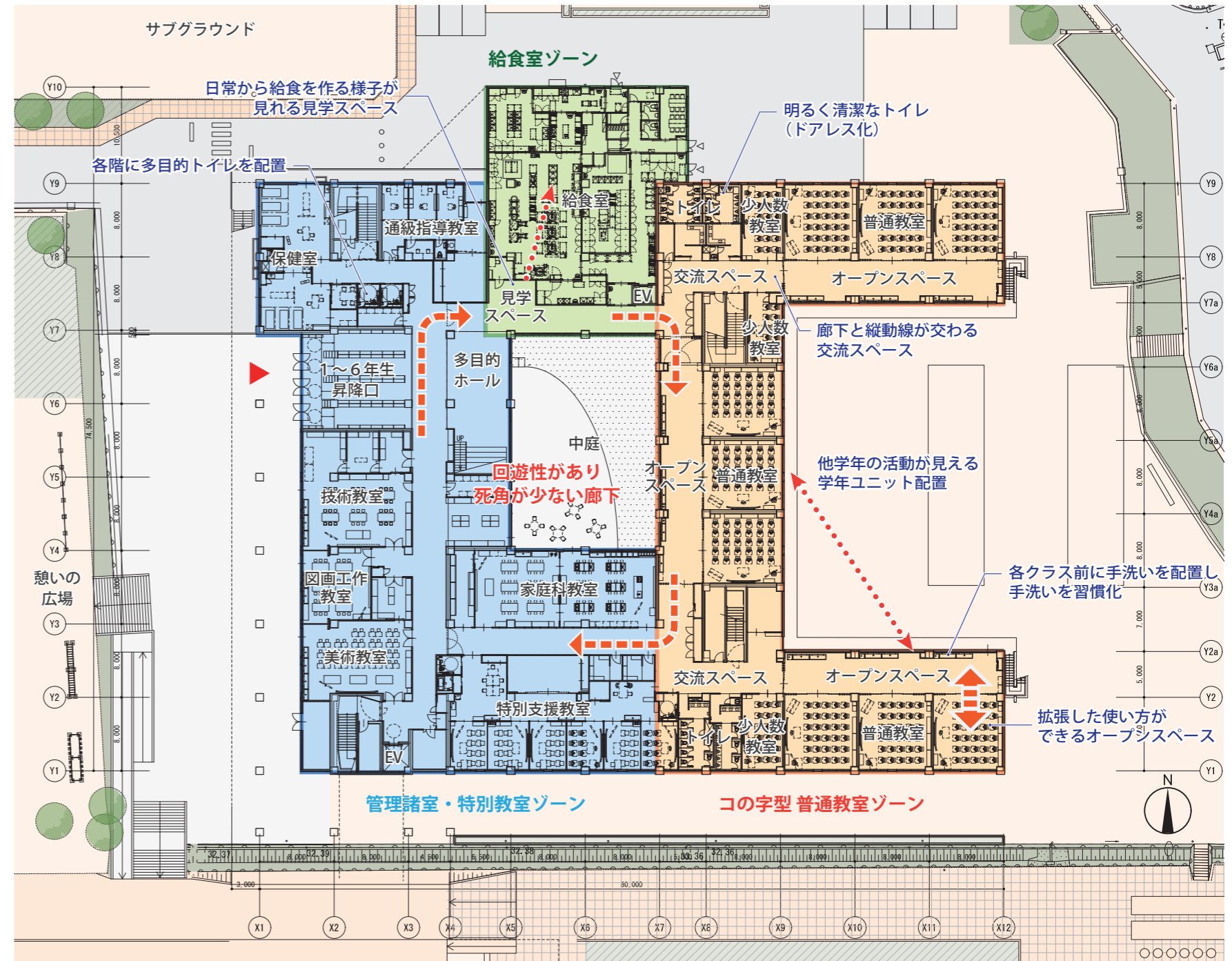
- ・普通教室ゾーンを『コ』の字に配置することで、各普通教室（オープンスペース）から他学年の活動を見ることができる。また、『コ』の字配置により学年ごとに日照、方位等、生活環境に変化が生まれ、進学にともない児童生徒が自身の成長を実感できる学校を計画する。
- ・廊下や縦動線の交点には交流スペースを計画し、学級内だけでなく他学年との交流が自然と生まれる計画とする。
- ・廊下は回遊性があり、死角が少なくシンプルな動線とすることで、避難動線もわかりやすく安心につながる計画とする。

児童生徒の成長に合わせた環境づくり

- ・進級することで少しずつ学習環境が変化する平面計画やエリアカラーデザイン・サインデザインなど、校舎内できめ細やかに設えを変えることで、9年間の長い学校生活に変化を与え、児童生徒自身が成長を感じることでできる計画とする。
- ・ロッカーや下足棚の高さは学年によって調整を行い、児童生徒が使いやすい計画とする。
- ・学校生活の拠点となる普通教室前にオープンスペースを確保し、教室の建具を大きく開放することで普通教室を拡張した使い方ができる環境とする。また、各学年ユニットを扉で区切ることができ、学年ごとの活動に対応できる計画とする。さらに、学年ユニットごとの扉、各普通教室の扉はガラス窓を設け、活動の見える化を図る。
- ・後期課程の普通教室前にはロッカースペースに各生徒の副教材の収納が可能なロッカーを配置する。また、ロッカー高さを抑え、打合せ等にも活用可能な計画とする。

児童生徒の食育の場になる給食室

- ・廊下に隣接した場所に見学スペースを設け、見学窓から調理室が見える計画する。また、掲示物コーナーを設置することで、日頃から児童生徒の食育につながる計画とする。
- ・搬入から調理、洗浄までの動作を考慮した使いやすい給食室レイアウトを計画する。また、手洗い、扉を適切な位置に計画し、衛生管理を十分にできる計画とする。



1階平面図

※ 図は基本設計段階のものであり、実施設計で変更となる可能性があります。

■ 平面計画

明るく清潔な共用空間づくり

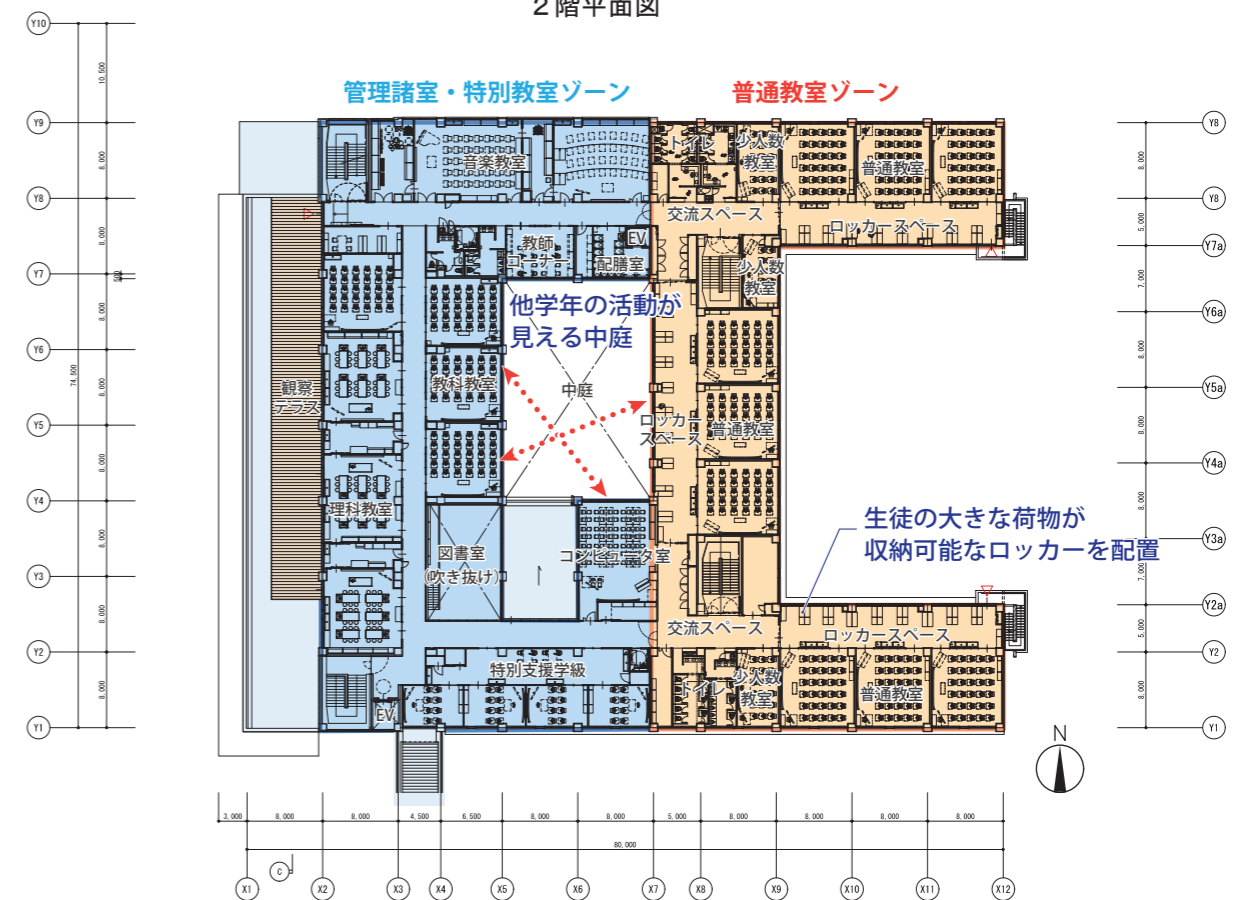
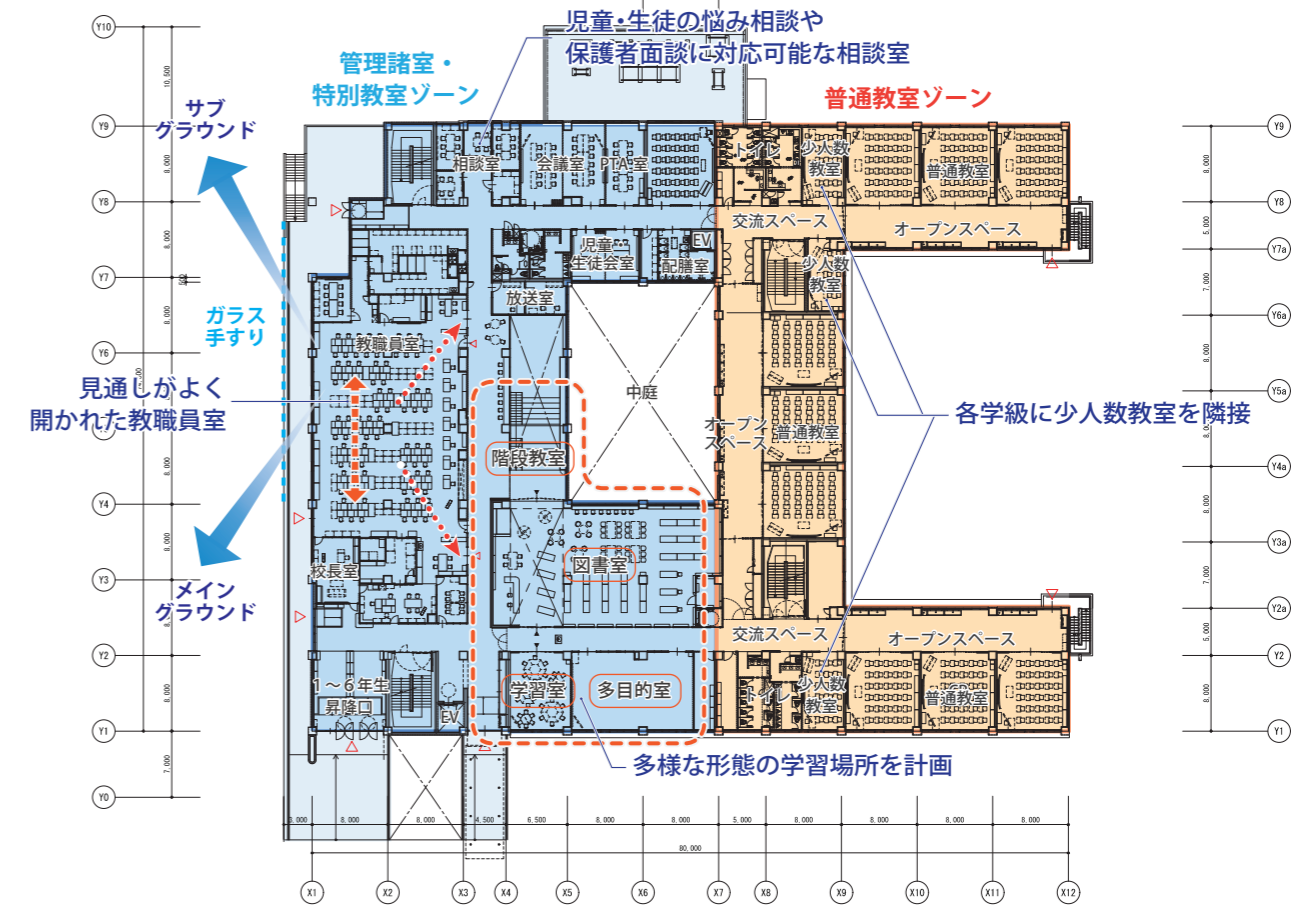
- ・トイレ出入口のドアレス化や自動水栓の採用など、徹底的な非接触化を図るとともに、児童生徒が触れる場所には消毒しやすい素材や抗ウイルス対応建材の採用を行うことでメンテナンスがしやすく清潔な共用空間となるよう配慮する。また、外部窓の確保や出入口壁の一部ガラス化など、明るく風通しがよく、清潔なトイレとなるよう計画する。さらに、トイレ器具数にゆとりをもたせ、児童生徒が快適に使用できる計画とする。
- ・多目的トイレを利用しやすい位置に配置し、ユニバーサルデザインに配慮した計画とする。
- ・各普通教室前に手洗いを計画し、日常的な手洗いの習慣化につなげるとともに、休み時間の手洗いの集中利用に対応できる計画とする。
- ・児童生徒用の更衣室を各階に確保することで、児童生徒が安心して利用できる施設とする。
- ・相談室を確保することで、児童生徒の悩み相談や保護者との面談など、プライバシーに配慮した計画とする。

様々な学習形態に柔軟に対応できる施設

- ・学年ごとに少人数教室を隣接して配置し、きめ細やかな学習への対応が可能な計画とする。
- ・多目的ホール・階段教室、図書室・学習室、多目的室など、多様な形態の学習場所を配置することで、教職員が形態に合わせて学習場所を選択でき、また、児童生徒も学校生活の中で自主的に学習場所を選択できる計画とする。
- ・児童生徒の学びを支える図書室を中心に対話や発表ができる機能を持った学習場所を隣接させることで、児童生徒が主体となって深い学びができ、生きる力を育むことのできる計画とする。

機能的で連携ができる管理諸室

- ・教職員室は1～9年生の教職員が同じ空間にすることで迅速な情報共有が可能な計画とする。また、教職員の座席を島状に配置して教職員の連絡・連携がとりやすいレイアウトを計画するとともに、日常的な打合せが行える打合室を教職員室内に設置することで、教職員間の連携を強化できる計画とする。
- ・管理諸室内に生徒対応コーナーを配置し、生徒対応が行える計画とする。また、個人情報等の管理に配慮した計画とする。
- ・校長室、教職員室の壁を一部ガラスとし、教職員室の見える化を行うことで生徒が相談などを行いやすい雰囲気づくりを行う。また、教職員室前の廊下に相談カウンターを設け、児童生徒だけでなく保護者の対応などが行えるスペースを計画する。
- ・管理諸室前のテラスの一部をガラス手すりとすることで、管理諸室からの見通しがよく、児童生徒の登下校の様子やグラウンド・広場で遊ぶ姿が教職員から見やすい計画とし、安全・安心な学校づくりに配慮した計画とする。



※ 図は基本設計段階のものであり、実施設計で変更となる可能性があります。

■ 立面計画

地域のシンボルとなる外観デザイン

・アイスポットとなる階段室にシンボル性をもたせ、新しい学校が周囲から視認しやすい計画とし、学校が永く愛されるよう配慮した外観デザインとする。現代的な先進性が感じられるデザインを取り入れ、児童生徒の登校時のワクワク感や学校生活の充実感が感じられるような演出を行う。

メンテナンス性に配慮した材料の採用

・外部に使用する材料・素材は、耐久性を考慮し、維持管理や修繕に関するメンテナンス性に配慮した計画とする。
・設備機器についてもメンテナンスが容易な機器を採用するとともに、定期的な更新に際しても更新が行いやすいよう配慮した計画とする。

省エネ・環境に配慮した開口計画

・開口は明るい学習環境となるよう適切に設けるとともに、児童生徒の安全性が確保できる計画とする。また、室内の明るさを確保しつつも開口面積を最小限に抑えることで、空調負荷の低減を図り、省エネや環境に配慮した計画とする。



西側立面イメージ



南側立面イメージ

■ 断面計画

適切な建物高さの設定

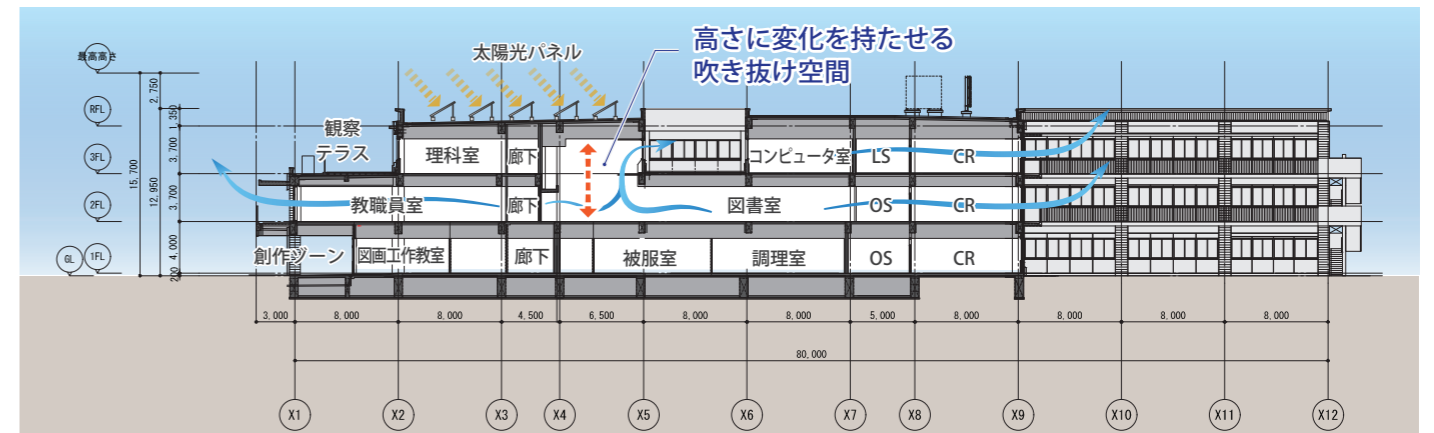
・周辺への圧迫感がないように建物ボリュームを抑えつつも、中庭や吹き抜け空間を設けることで空間にメリハリをつけた計画とする。

自然採光・通風を促す中庭

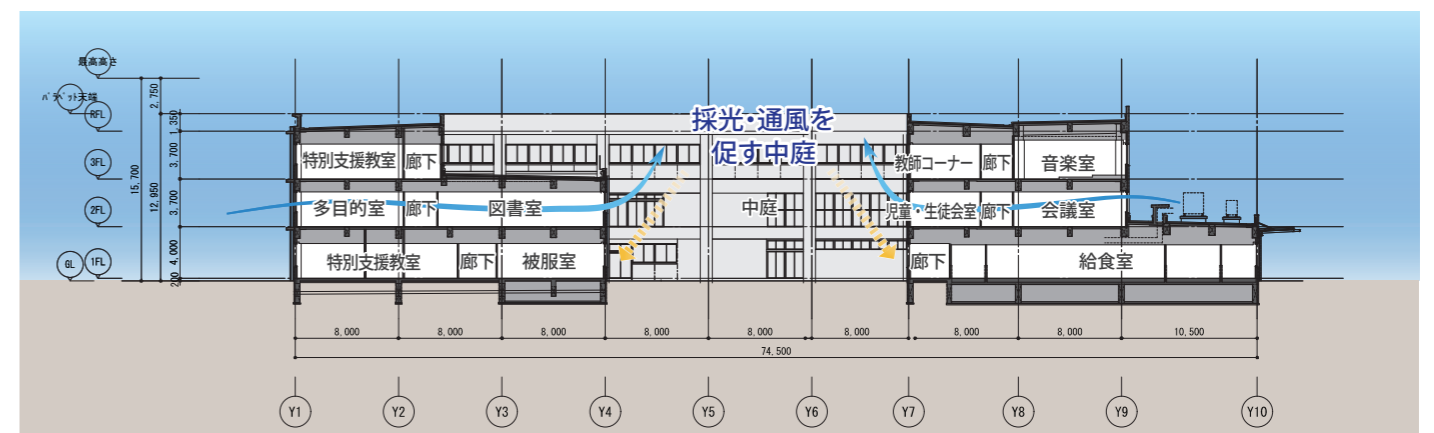
・校舎中央に大きな中庭を計画することで、暗くなりやすい1～2階にも光が入り、明るく開放感のある計画とする。また、中庭があることで建物内の通風を促し、教室などが風通しの良い環境となるよう計画する。

階段教室・図書室

・階段教室は図書室と多目的ホールをつなぎ、発表形式の学習形態や講演などのイベント会場として利用することができ、休み時間等には読書場所として利用できる計画とする。
・図書室は北側が中庭となるよう配置し、本への直射日光の影響を抑制しつつ、明るい図書館となる計画とする。
・集中して読書ができるエリアを確保しつつ、読み聞かせ等を行えるオープンエリアには吹き抜けを設けることで空間に変化を与え、吹き抜けの壁一面を本棚とすることで収容書籍数を確保し、楽しい図書室の雰囲気づくりを行う。



断面図 (東西方向)



断面図 (南北方向)

※ 図は基本設計段階のものであり、実施設計で変更となる可能性があります。

稲築中学校区義務教育学校施設整備事業
全体工程表

建築主 嘉麻市長 赤間 幸弘 様	構造 RC造他	階数 新校舎：地上3階 サブアリーナ：地上1階	戸田・西・東畑特定建設工事共同企業体
設計者 株式会社 東畑建築事務所	建築面積 新校舎：約4,580㎡ サブアリーナ：約1,400㎡	着手 2021年02月17日(水)	
計画地 福岡県嘉麻市口春615番地	延床面積 新校舎：約10,500㎡ サブアリーナ：約1,400㎡	竣工 2024年10月31日(木)	

